



国連WFP 飢餓のない世界をつくるには防災が必要です

災害は飢餓の原因

自然災害は飢餓をまねく大きな要因です。災害が発生すると、経済的にも物理的にも食糧を手に入れることが難しくなります。食糧の安定供給にも打撃を与え、人々の栄養状態も悪影響を受けます。

慢性的な飢餓と貧困に直面する社会的弱者

世界の飢餓人口8億500万人のうち8割が、災害が起きやすい地域に暮らしています。災害が起きると人々は家、農業に必要な道具や作物を失ったり、避難を余儀なくされ、貧困へおいやられます。食糧不足の地域では、災害がたちまち食糧危機、栄養危機へと発展することもあり、その状態を脱するまでに数年かかることもあります。

防災

持続的な開発および飢餓の解消には防災対策が必要です。社会的な弱者とその財産を災害から守れなければ、強靱な地域社会づくりや災害などのリスク低減が実現できず、飢餓が解消されません。

国連WFPと防災

防災は国連WFPの責務および使命の中核を成しています。

国連WFPの支援プログラムのおよそ半数が、防災関連活動です。こうしたプログラムは、例年およそ60カ国で実施され、最大3,000万人を支援しています。

国連WFPは食糧安全保障および防災分野を先導するイノベーターであり、緊急事態への備えとして最先端の取り組みや、世界で採用されている早期警戒システムを導入しています。また、災害対応およびセーフティ・ネットの仕組みとして、天候保険のような革新的なリスク・ファイナンス・ツールの実用化にも取り組んでいます。



国連WFP

飢餓のない世界をつくるには防災が必要です



国連WFPは、以下のような防災活動を推進しています。

• 緊急時への備え、緊急支援および復興支援

国連WFPは常に緊急時へ備え、支援の準備や計画を行っています。そうすることで、災害時にはいち早く緊急支援を立ち上げ、弱者が災害でこうむる被害を減らすことができます。また、支援諸機関に対して支援物資輸送（ロジスティクス）や情報通信技術サービスを提供するほか、食糧関係の支援活動の調整も行っています。

• 強靱な地域社会の構築と弱者の保護

国連WFPは、政府や連携機関とともに、防災につながる社会基盤の整備を行っています。土壌および水の保全、洪水防止インフラの整備および復旧、道路の修復といったさまざまな工事を行い、その工事に参加した人に対して食糧を支援します。

• セーフティ・ネットと社会的保護の推進

セーフティ・ネットなどの社会保護の仕組みは、自然災害リスクの軽減や、気候変動への適応策を推進するために重要な政策です。国連WFPでは食糧安全保障および栄養関連の分野において、拡張がしやすく柔軟なセーフティ・ネットと社会的保護システムの整備および推進をサポートしています。

• 食糧安全保障の分析とモニタリングおよび早期警戒

国連WFPは各国政府に対し、食糧の安全保障、栄養状況、市場指標および災害等を監視する高度な食糧安全保障モニタリングシステムの実施を支援しています。そうすることにより、災害対策、防災および災害対応を実行するのに効果的な分析を行うことができます。

• 能力開発と南南協力

国連WFPは各国政府とともに、人道支援、食糧と栄養の安全保障、生活支援、脆弱性分析、緊急時への備え、社会的保護とセーフティ・ネット、強靱な社会構築といった分野において、防災能力の開発に取り組んでいます。

パートナーシップ

国連WFPは各国政府、地域社会、地域組織、国際組織、非政府組織、および民間セクターと強固な協力関係を築いています。こうした運営面、戦略面でのパートナーシップは、地域社会および国家が、防災や災害対応において適切な支援を受けるために重要です。